

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170200448		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ1号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条2丁目50 (電話) 011-774-8863		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年5月22日	評価確定日	平成21年6月4日

【情報提供票より】 (平成21年5月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	5.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨木造ログハウス2階造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	光熱費: 9,000円 (冬季11月-3月)12,000円
敷金	有 (円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 760 円		

(4) 利用者の概要 (5月 3日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.6 歳	最低 81 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 札幌優翔館病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム茨戸ふぁみりあ1号棟は、ログハウス風の木を基調とする落ち着いた造りの建物である。全体的に広々としたスペースで天井が高く、天窓からの採光も適度でゆったりと気持ち良い生活空間となっている。同法人が経営している特養や老健施設が多数あり、利用者の状況や要望の変更には柔軟に対応できる。職員の都合を優先せず、一人ひとりのペースを尊重したケアが実践され、利用者はそれぞれビデオや読書などを楽しんでおり、くつろいだ様子がうかがえる。各居室にはトイレ・洗面所・冷蔵庫が備えられるなど設備が整っており利用者は快適な生活を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前年度の取り組み事項は概ね改善している。一例として、昨年までは「ホーム便り」を発行していなかったが、今年の2月から取り組み5月には第1号を家族宛てに発送した。また、冬季の外出についても月に1回は車を利用して近隣の大型施設等に行っており、今年は雪まつりも楽しんだ。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全員が自己評価を実施する意義を理解している。今回の自己評価については全職員で取り組み、事実を記載し管理者が内容をまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、外部評価の内容を運営推進会議の議題として話し合いサービス向上に生かしている。家族からの意見として、最近起きた他のグループホームの火災などの例から防災についての具体的な話し合いも行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご意見箱を玄関に設けているほか、通常から気軽になんでも話し合える雰囲気作りにも努めている。家族等からの疑問や意見に対しては、誠意を持って対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 冬季には近所の方が駐車場の雪かきをしてくれたり、地域の小学生が訪問し「よさこい」を見せてくれたりしている。隣接した同経営主体のグループホームとの合同夏祭には、近所の方々に参加してもらうなど地域との交流は盛んである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設理念として、4つの基本理念及び方針と、ホーム目標として分かりやすい5つの目標を設定している。また施設理念の中に地域密着型サービスとしての取り組みを盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、施設理念をカード化して携帯しているが、ホーム内に掲げている理念は、要約しているものである。ホーム便りやパンフレット等に掲載はされていない。	○	今年度から発行している「ホーム便り」に施設理念を明示するなど、より明確に理念を共有していく取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同経営主体のグループホームと合同の夏祭には、近所の方々に参加してもらっている。近隣でも、冬季にはお隣の方が駐車場の雪かきを手伝ってくれたり、地域の小学生がホームを訪問してよさこいを披露してくれたりなど地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、今年度の自己評価は、職員全員で取り組み事実を記載し、管理者が内容をまとめた。前年度の外部評価については、おおよそ改善できたが、計画的に改善に取り組む仕組み作りまでには至らなかった。	○	自己評価・外部評価で確認できた取り組み事項について、具体的な時期や方法の改善計画を作成するなどの取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。外部評価の内容を運営推進会議の議題として話し合いサービス向上に生かしている。家族からの意見として、最近起きた他のグループホームの火災の例から防災についての具体的な話し合いが行われた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、グループホーム管理者会議やその他で区の担当者と意見交換をしている。また、市の担当窓口を訪問し情報提供を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が頻繁に訪問してくれているので、利用者の日々の状況を報告し、金銭出納報告も毎月郵送している。前回の外部評価で取り組み事項とした、ホーム便りの発行については今年の2月から取り組み、5月には第1号を発行し、家族等に見ていただいた。	○	今後は、定期的にホーム便りを発行されるよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設けているほか、通常から気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。家族等からの疑問や意見に対しては、誠意を持って対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3年間近く職員が退職しておらず、職員の異動もほとんどない。新規採用の職員には朝の体操を利用者と一緒にやるなど、自然な形で親しみをもたれるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、同法人経営のグループホーム合同の研修があり全員が参加している。また、お互いのホームを見学し合うこともある。外部研修については、区が主催の研修に年間約半数の職員が参加している。外部研修の内容は会議での報告等を通じ全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区の管理者会議に積極的に参加しており、事例研究などの研修では職員も参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族等にホームを見学してもらっているが、入院中などで来られない場合は、管理者が本人を訪問している。利用開始後には、過去の生活歴を把握し、話題づくりをして利用者が馴染める環境をつくっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側も楽しめる介護を目標として、利用者とともに、体操や歌を通じて楽しみを共有しながら過ごしている。野菜作りの得意な利用者には、苗の植え方を教えてもらったり、利用者によっては、他の利用者も誘いながら台所を手伝ってもらったりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のその時々状況を把握しながら対応している。各居室全てにトイレがついているので、居室から居間に戻ってきた時の雰囲気や表情から、おなかの調子を察したり、臭いなどから体調・状況を判断するなどの対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議で前回の介護計画の評価と見直しを行い、家族等の来訪時に得た意見や情報を参考にしながら担当職員が原案を作成する。原案をもとに計画作成担当が内容を精査してまとめ、家族等に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行い、新たな介護計画を作成している。その際は家族に意見を求め、計画に反映させている。薬の変更や病院退院後など状況の変化が大きい場合は1ヶ月程度で見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人が経営している特養や老健施設が多数あり、利用者の状況や要望の変更には柔軟に対応できる。家族等が宿泊を希望した場合には布団の提供をし、個人的な買物には代行で購入したり、車で一緒に出かけたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、受診を希望する医療機関を自由に選択できる。眼科・神経内科はかかりつけの医療機関を受診している利用者もいる。希望者には協力医療機関での月2回の往診があり、歯科医も往診してくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」が文書化されており、サービスの利用契約時に説明し、確認印をもらっている。協力医療機関との連携で、看護師との24時間体制の確保等サポート体制も整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の規定に沿って情報の管理を行い、日誌などの記録物の保管場所を決めている。他の利用者が一緒に過ごしている場面で、耳の遠い利用者に排泄等の言葉かけをする時は、ジェスチャーを交えながらの言葉かけなど配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日のスケジュールはあるが、利用者によっては、自分なりのスケジュールが決まっている方もいるので、職員の都合を優先しないよう一人ひとりのペースを尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒にテーブルで食事をしている。調理の下ごしらえやテーブル拭き、下膳、食器の後片付けなど利用者のできる範囲で職員と一緒にこなしている。現在、月に1度、利用者の好みや意見を聞きながら献立を作成している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を基本にしている。月・火あるいは木・金の午後と、曜日・時間帯は決まっているが、利用者の希望に応じて変更可能である。入浴後には、爪切りをしたり水分補給をしてもらったりとゆったりできるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から本人のできることや得意なことを見つけて支援している。歌が好きな方には、皆で歌う場を設け、字の得意な方には誕生日会で色紙に字を書いてもらったりしている。毎日の朝の体操なども皆楽しんで行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外は、天候や利用者の体調をみながら週3回は散歩や外気浴をしている。お誕生日月には外食を楽しんでいる。冬季は、月に1回は車を利用して近隣の大型施設等に行くようにしている。今年には雪まつりを楽しんだ。	○	冬季の外出機会も確保できるよう、家族等の協力も得ながら外出の頻度を増やし、また図書館等の公共施設など外出先のバリエーションも増やす取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。玄関にはセンサーを設置し出入りが確認できるよう安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全職員が消火器等を取り扱うことができる。また、防火管理者を中心に災害時を想定した訓練を計画中である。夜間想定訓練についても実行したいと考えている。	○	今後は、夜間を想定した避難訓練についても、運営推進会議の議題に取り上げ、地域の人々の協力を得ながら実行できるような取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮しながら献立を作成している。利用者の食事量や水分量等を日誌に記録し全職員が情報を共有しているが、栄養士の指導等は受けていない。	○	関連協力機関や行政の協力を得て、定期的に栄養士等の確認や指導を得られるような取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天井が高く天窓からの採光も適度である。広いスペースに複数のテーブルやソファが配置され、ゆったりと気持ち良い雰囲気である。利用者はそれぞれビデオ鑑賞や読書などを楽しみ、くつろいだ感じが感じられる。居間・廊下には利用者の手作りの作品等が飾られ、居心地の良い生活空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレと洗面所・冷蔵庫が備えられている。利用者は好みのものや使い慣れたもの、大切なもの、例えば仏壇や家族の写真などを持ちこんで居心地良く生活している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。